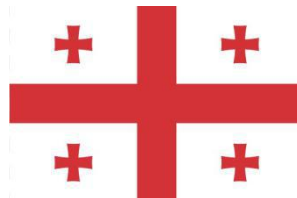


◎ジョージア・トビリシ伝統芸能公演ツアー



今回の公演は日本の伝統芸能を紹介する目的で、獅子舞師の「改田雅典」さんのお声がけにより、篠笛奏者「片野聡」さん、和太鼓奏者「三浦公規」さん、そして津軽三味線「山中信人」の4人での公演となりました。改田さんと私はお互いに埼玉県加須市出身で年も近く、良き友人のような関係です。

海外公演は、2020年2月の世界中がコロナで混乱する直前に企画されたブルネイ、マレーシア公演以来。この2月は下旬に香港公演の予定もありましたがコロナで中止となり、正直、「コロナ禍での海外公演、無事に帰国できるのか？」という不安もありました。実際少し前にヨーロッパへ出掛けた演奏仲間が、現地でコロナ陽性反応のため帰国が大幅に伸びたという話も聞き、とても心配な公演の旅となりました。

さて、日本時間2月13日19時頃羽田空港国際第3ターミナルに到着。久しぶりの国際線ターミナルに少し緊張。約12時間掛けて経由地のトルコ・イスタンブールへ。

世界中の外国人が集まるハブ空港で誰もマスクをしていない事に衝撃を受けました。日本と外国ではコロナの認識が異なるという話は聞いていましたが、ここまで違うとは思ってもよらず。そのままジョージア行きの飛行機へ。審査もスムーズでいよいよ入国を果たしました。

私自身、ジョージアは2014年以來の2回目。ちなみに旧ソ連の国々には11カ国を公演で訪れた事がありますが、治安の良さ、人の優しさからどの国も素晴らしい思い出ばかりです。

2月14日お昼頃ホテルにチェックイン。少し休憩し、15時にはジョージアで唯一日本語のカリキュラムがある私立学校「ジョージアンスクールトビリシ」での学校公演です。



日本の伝統芸能を初めて目にした子供達の興奮した姿に、我々も感動し、熱のこもった演奏となりました。その後は学校関係者の皆さんと地ワインをいただきながら会食を。



数分おきに乾杯してはお酒を注いでくれる男性職員がいました。外国人とのコミュニケーションが本当に嬉しいのだと思われ、我々もお酒の量が進みました。話題はどうしても戦争の事になりがちですが、乾杯のたびに辛い話はリセットされて明るい話になり、お酒の場の中でも平和の尊さを感じる時間でした。

宴が終わり、ジョージアの伝統芸能を学んでいる「MTIEBI(ムティエビ)」の若いメンバー達との交流を。



日本とジョージアの伝統芸能をお互い発表しあい、有意義な時間を過ごせました。

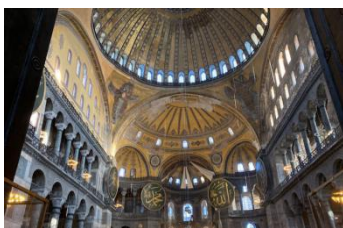
2日目は現地の JICA にてミーティング。改田さんや私は埼玉県出身なので、埼玉についての話題も多くなり、出身地の加須市の話などもさせていただきました。その後はウクライナから避難している子供向けのウクライナ語学級と、現地のジョージア語学級がある公立学校「220番学校」へ。



子供達は戦争で母国を追われ、国に帰る事が出来ずに心苦しいであろうと察しましたが、我々の舞台が始まれば、聞き入り、手を叩き、獅子舞に頭を噛まれたいと全員が整列。笑顔の絶えない会場にこの日も嬉しさがこみ上げました。

夜は「シェラトンホテルトビリシ」にておこなわれた在ジョージア日本大使館主催の天皇誕生日レセプションで演奏を。政財界、日本とゆかりのある方、パラリンピアン、元小結黒海関などが参加され、公演後はいろいろな方々とお話できました。

次の日早朝には空港に向かい帰国へ。帰りもイスタンブール経由でしたが、乗り継ぎに 10 時間以上あるのでトルコ観光を。ブルーモスクは改装中に入れませんでした。 「アヤソフィア」や地下宮殿「バシリカ・シスタン」へ。メンバーの皆さん初めてでとても感動されていました。ちなみに私は同じような乗り継ぎ日程で訪れるのも3回目です。



いよいよ日本に戻り入国へ。その後の数日間もコロナに感染せず、改めて旅の成功を感じました。2泊5日の強行スケジュールでしたが、疲れよりも達成感に浸る事が出来ました。疫病や戦争など世界中で問題を抱えておりますが、少しでも解決して、世界中の方々に津軽三味線の音色を届けたいと願っています。